



MYCHRON4



ユーザーズガイド

本書について

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは固くお断りします。
- 本書の内容に関して、将来予告無しに変更することがあります。
- 本書の内容については、万全を期して作成いたしました。が、誤植や制作上の誤記がないことを保証するものではありません。
- 本書の内容に関して、Aim s.r.l. および有限会社ベアでは一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

本書の著作権について

- すべての権利は、Aim s.r.l. および有限会社ベアに属しています。無断で複製、転記、翻訳等を行うことは、一切お断りいたします。

© BEAR inc.



目次

■はじめに	1
■クイックスタート	1
MYCHRON4 の構成	1
使用のための準備	1
取付け	2
使用方法のアウトライン	4
■リファレンス.....	5
各用品の詳細.....	5
ディスプレイ.....	5
ボタン.....	5
警告ランプ.....	5
エンジン回転数センサ.....	5
温度センサ.....	8
液温センサの取り付け.....	8
排気温度センサの取り付け.....	8
シリンダヘッド温度センサの取り付け.....	9
ラップセンサ.....	9
ラップマーカー.....	9
メモリについて	10
設定メニューの詳細.....	10
セッションモード.....	11
シュウカイスウカウンタ(周回数カウンタ).....	11
ヨセン(予選).....	11
レース.....	11
ラップムシジカン(無視時間).....	11
サーキット.....	11
コントロールパネル.....	11
セッテイウィザード(設定ウィザード).....	11
ルイセキソウコウジカン(累積走行時間).....	11
ヒョウジゲンゴ(表示言語).....	12
コントロールパネルメニューの詳細.....	12
RPMセッテイ(設定).....	12

サイダイ RPM (最大 RPM)	12
RPM バイリツ (倍率)	12
RPM ケイコク (警告)	12
RPM ピークホールド	12
クドウホウシキ セッテイ (駆動方式設定)	13
クドウ ホウシキ (駆動方式)	13
ミッションノ カズ (数)	13
クカンセッテイ (区間設定)	13
マイセツジシャクノ カズ (埋設磁石の数)	13
クカン モード (区間モード)	13
スタートラインバンゴウ (番号)	13
システムセッテイ (設定)	13
トケイヲ セット (時計をセット)	13
ヨソク (予測)	13
ハンテン (反転)	13
コントラスト	13
システム ジョウホウ (情報)	14
ドライバー	14
使用方法の詳細	14
走行中の表示	14
記録されているデータを表示する	14
セッションサマリー (概要)	14
回転数グラフ	14
ラップヒストグラム	14
ラップ詳細	14
記録されているデータを消去する	14
パーソナルコンピュータでデータを解析する	14
メンテナンス	15

■はじめに

この度は MYCHRON4 をお買いあげいただき、有り難うございます。本マニュアルは「クイックスタート」と「リファレンス」の二部構成となっています。初めて MYCHRON4 をお使いになる方は、まず「クイックスタート」をお読みください。

さらに詳細な情報については「リファレンス」をご覧ください。

■クイックスタート

MYCHRON4 の構成

お買いあげいただいた MYCHRON4 には以下のパーツが含まれています。不足部品がある場合は、販売店にご相談ください。



1. MYCHRON4 本体
2. ラップセンサ (赤外線式・磁気式・高感度磁気式のいずれか)
3. ラップマーカーおよびラップマーカー用外部電源ケーブル (マーカー付きセットの場合のみ)
4. 温度センサ

使用のための準備

電源

MYCHRON4 は、電源に 9V 型アルカリ乾電池 (別売) を使用します。本体裏に「Internal battery: 9V Alkaline」と刻印のある電池カバーがあるので、2 本のビスを緩めて取り外します。コネクタに電池を取付けて、カバーを閉めます。



[ON / VIEW] ボタンを押すと電源が入り、[>> / OFF] ボタンを長押しすると電源が切れます。



MYCHRON4 は、オートスタートおよびオートオフの機能があります。電池が正常で、タコメーターがきちんと動作していれば、エンジンが始動した時点で自動的に電源が入ります。また、しばらく操作を行わないと、自動的に電源が切れます。

簡単な設定

MYCHRON4 の電源を入れ、[MENU] ボタンを押します。この操作をご購入後に初めて行うと、自動的に設定ウィザードがスタートします。大まかな設定を対話方式で行えるので、画面の指示に従って、以下の通り設定を進めます。なお、画面の左右には各ボタンに割り当てられる機能が表示されますので、参考にしてください (このマニュアルでは画面

上の表示ではなく、本体に刻印されている表示を使用します)。

Language

MYCHRON4の表示言語を選択します。左側二つのボタンで前後に移動できます。MYCHRON4は日本語のカナ表示が可能なので、「ニホンゴ」を選択し、[MEM / OK] ボタンを押します。

ドライバーノマエヲ ニュウリョク

使用するドライバー(ライダー)の名前を入力します。左側二つのボタンでアルファベットから選択し、[MEM / OK] ボタンで入力します。「←」は一文字削除です。入力が終了したら、リスト最後のディスクマークを選択し、[MEM / OK] ボタンを押して保存します。

クドウホウシキ

車両の駆動方式を選択します。左側二つのボタンで、ダイレクト・テイカイテンセツゾククラッチ・ミッションの中から選択します。テイカイテンセツゾククラッチ(低回転接続クラッチ)は、IAME TaG・Rotax MAX・Vortex Rokなどの乾式遠心クラッチが装備された車両です。[MEM / OK] ボタンで次に進みます。ミッションを選択した場合には、最大ギア数を設定します。

オンドタンイ

温度表示の単位を左側二つのボタンで、セ氏か華氏から選択します。[MEM / OK] で次に進みます。

サイダイ RPM

タコメーターバーグラフの最大値を、左側二つのボタンで、6,000rpm から 24,000rpm

の範囲で選択します。[MEM / OK] で次に進みます。

RPM ケイコク

上部中央にある、エンジン回転数警告ランプを点滅させる数値を設定します。左側二つのボタンで、値を増減させます。使用しない場合はゼロのままにしておいてください。[MEM / OK] で次に進みます。

M4T1 オンドケイコク

温度警告ランプを利用するかどうか設定します。左側二つのボタンでムコウ(無効)とLed 1とLed 2を切り替え、[MEM / OK] で次に進みます。有効にした場合には、続いて「コウオン ケイコク(高温警告)」の設定となりますので、点灯させる温度を選択します。

ジカンヲ セット

内蔵クロックカレンダーを合わせます。左側二つのボタンで値を変え、[MEM / OK] で次に進みます。時・分・西暦年(ネンヲ セット)・月(ツキヲ セット)・日(ヒヅケヲ セット)・曜日(ヨウビヲ セット)と続けて設定します。以上の設定を行うと、設定ウィザードは終了です。

取付け

ディスプレイ(本体)

ディスプレイ(本体)を裏面のボルトナットを利用して取付けます。故障の原因になりますので、付属のプラスチックワッシャーをきちんと挟み、あまり強く締めすぎないでください。また、本体の他の部分が当たってケースが変形していないかを確認してください。

ラップセンサ

1. 赤外線式の場合

赤外線受信器（ラップセンサ）をラップマーカーを設置するコースサイドに向けます。赤外線は不透明な材質や赤外線カットガラスに遮断されてしまうため、ラップマーカーまで見通せる状態にしておかなければなりません。受信器の端にある小さなレンズで信号を受けます。



2. 磁気式（高感度タイプ含む）の場合

センサに記載されている矢印方向を、車体の前後方向と合わせて、なるべく低い位置に取り付けます。表記面を上側にして取り付けることで感度が一番高くなります。



タコメーターケーブル

タコメーターケーブルを他のセンサのケーブルとは離してエンジンまで取り回し、先端のクリップをハイテンションコードに引っ掛けます。先端（銅線部）が車体の金属部分に接触しないようにしてください。

温度センサ

MYCHRON4 に温度センサを取り付ける場

合は、選択したセンサに合わせて、下記の要領で取り付けてください。

- 液温：エンジンの水温センサ取り付け部などに取り付けます。センサはM5 サイズか、M10 サイズです。
- 排気温度：ヘッダーパイプなどに、付属するM5のナットを溶接して取り付けます。プローブがヘッダーパイプ直径の25から50%の位置に来るようにしてください。
- シリンダヘッド：スパークプラグのワッシャーを抜いて取り付けます。スパークプラグの取り付け・取り外しの際には、センサの破損を防ぐために、手で抑えて動かないようにしてください。



温度センサはエンジンに近い場所に取り付けるため、激しい振動にさらされます。センサやケーブルは必ずきちんと固定してください。特にシリンダヘッド温度計は、ヘッドのフィンなどに沿わせるように、センサ自体を曲げた上で固定することをお勧めします。ケーブルが固定されていない場合も、センサの根元で断線しやすくなりますので、注意してください。

各センサを接続する

すべてのセンサを正しく取り付けたら、MYCHRON4 本体と接続します。本体裏側に付けコネクタがあります。温度センサを TEMP. に、ラップセンサを LAP に、それぞれ取り付けます。



外部電源ケーブルを利用する場合は、EXP / PC に接続します。

ラップマーカー (赤外線式の場合)

ラップマーカー (赤外線発信器) を、コースサイドのなるべく走行ラインに近い場所に置きます。また、ラップマーカーは受信器と同じくらの高さに置く必要があります。



ラップマーカーは、右上の円形に配置されたLEDから赤外線を発信します。

裏面に電源スイッチと外部電源の入力コネクタがあります。



裏面から4本のビスをゆるめてカバーを外し、単3型乾電池を8本取り付けます。Powerランプが点滅したら電池を交換してください。

12Vの外部電源を使用する場合には、乾電池は必要ありません。付属する外部電源ケーブルの、赤いコネクタを+(プラス)端子に、黒いコネクタを-(マイナス)端子に取り付けてください。

使用方法のアウトライン

走行中の表示

MYCHRON4は、エンジンが始動すると自動的に起動するので、そのまま走行できます。走行を開始すると、上部のバーグラフにエンジン回転数が表示されます。また、左側に温度が表示されます。コースサイドにおいたラップマーカーの前を通過する(赤外線式の場合)か、埋設された磁石の上を通過する(磁気式の場合)と右下に各種タイムが表示されます。

データを記録する

MYCHRON4は、各種のデータを内部のフラッシュメモリに記録します。

なお、MYCHRON4はエンジンが始動していないと、データを記録しません(タイム自体は表示されます)。

データを呼び出す

走行が終了したら[MEM / OK]ボタンを押します。走行したセッションのサマリーがまず表示されます。

10/01/06		Laps: 25	
T T		MaxRPM: 9400	
		MaxTemp: 168°F	
Lap	Time	RPM	DROP
21	0:45.00	7000 6000	3000
22	0:45.17	9100 6100	3000
17	0:45.35	8500 5600	3000

走行した周回数により表示されるページが異なりますが、さらに[MEM / OK]ボタンを押す事で、ラップヒストグラム・回転数のグラフ表示・各ラップの詳細データなどが表示されます。

■リファレンス

各部品の詳細

MYCHRON4 の各部品の詳細と、取り付けの際の注意点は以下の通りです。

ディスプレイ

走行中の表示例を図に示します。

取り付ける際には、裏面のボルトナットでしっかりと固定してください。振動を抑えるために、付属するプラスチックワッシャーを挟んでください。また、ボルトの座面以外の部分にステアリング取付けボルト等が接触しないように注意し、強く締めすぎないようにしてください。

ボタン

MYCHRON4 のディスプレイ両サイドには4つのボタンがあります。これらのボタンの主な用途は以下の通りです。

- [MENU / <<] : メニューを表示・前に戻る
- [>> / OFF] : 次に進む・長押しで電源切断

- [MEM / OK] : 設定メニュー内では確定・データの呼び出し
- [ON / VIEW] : 電源を入れる・設定メニューを終了する・表示項目を切り替える(通常表示とクロック)

MYCHRON4 は、[ON / VIEW] ボタンを押す事で電源が入り、[>> / OFF] ボタンを長押しする事で電源を切断できます。また、エンジンが始動すると、自動的に電源が入り、非作動状態がしばらく続くと、自動的に電源が切れます。

警告ランプ

MYCHRON4 には温度警告ランプと回転警告ランプが装備されています。

- 温度警告ランプはディスプレイ上部左右のランプです。
- 回転警告ランプはディスプレイの上部中央のランプです。任意の回転数で点滅させることができます。

エンジン回転数センサ

エンジン回転数センサの先端にあるクリップをプラグコード(ハイテンションコード)に



メニュー項目				
バックライト		バックライトのオン/オフ		
セッション モード	シュウカイスウ カウンタ	走行した周回数を表示		
	ヨセン(ノコリジカン)	予選残り時間を表示		
	レース(ノコリシュウカイスウ)	レース残り周回数を表示		
ラップ ムシジカン		ラップセンサからのラップタイムを測定する。磁気センサを利用する。		
サーキット	入力済みサーキットのリスト表示	走行するサーキットを選択		
	<サーキットツイカ>	新たにサーキット名を追加		
コントロールパネル	テストデータ ショウキョ		ラップタイムデータ	
	RPMセッテイ	サイダイ RPM:		バーグラフ最大値
		RPM バイリツ:		回転毎の点火バルブ
		RPMケイコク:		回転警告ランプの割合
		RPMピークホールド:		RPMピークホールド
	オンド セッテイ	オンド ケイコク:	M4 T1オンドケイコク	MYCHRON4に接続
			コウオン ケイコク	警告ランプ点灯温度
		オンド タンイ:		温度単位の設定
	クドウホウシキ セッテイ	クドウ ホウシキ:		駆動方式の選択
		ミッションノ カズ:		最大ギアの設定(上限)
	クカン	マイセツジシャクノ カズ:		埋設磁石(ラップマ)
		クカン モード:		区間タイム表示方法
		スタートライン バンゴウ:		ラップ計測ポイント
	システム セッテイ	トケイヲ セット	トケイヲ セット	時刻および日付の設定
ジコク ショシキ			時刻表示方法の切り替え	
ヒツケ ショシキ			日付表示方法の切り替え	
ヨソク:		予測ラップタイム表示 *区間設定の埋設磁石数から		
ハンテン		液晶表示を反転		
コントラスト		液晶のコントラスト		
システム ジョウホウ		ファームウェアバージョン		
ドライバー:		ドライバーの名前		
セッテイ ウィザード		セットアップウィザード		
ルイセキ ソウコウジカン		累積走行時間を表示		
ヒョウジ ゲンゴ:		表示言語の設定		

基本操作方法： 初期画面で [MENU / <<] を押して上記メニュー表示

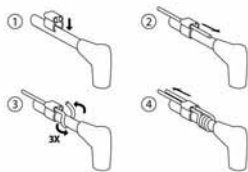
[MENU / <<] で次に移動 [>> / OFF] で前に移動 [MEM / OK] で確定・進む

ソフトウェアバージョン V 31.59.24版)

内容	選択項目									
オン・オフ切り替え	ON	OFF	[MEM / OK]で項目切替え							
カウントする										
表示する	Range: 5 <-> 60									
を表示する	Range: 3 <-> 2000									
の信号を無視する時間	Range: 3 <-> 180									
の場合には3~8秒程度に設定										
選択 (選択済み項目を再選択で編集可能)										
名称をリストに追加	アルファベット入力									
データの消去										
の設定	Range: 6000 <-> 24000									
の数を設定	×1	/2	/4	×2						
の設定	Range: 0 <-> 最大RPM									
の設定	OFF	5	6	7	8	9	10			
続したセンサの温度警告選択	OFF	Led 1	Led 2							
度設定(上記設定がOFF以外の時)	Range 10 <-> 1999									
	°C	°F								
	ダイレクト	テイクイテンセ ツゾククラッチ	ミッション							
記設定がミッションの時のみ)	2 Speed	3 Speed	4 Speed	5 Speed	6 Speed					
ーカー)数の設定	Range 1 <-> 5									
去の設定(上記設定が2以上の時のみ)	+/- ベスト	ジッサイノ	スウチ							
の設定(ビットアウト後何本目か)	Range 1 <-> N(上記埋設磁石数設定値)									
の設定										
の替え	24h	12h								
の替え	YY/MM/DD		DD/MM/YY	MM/DD/YY						
表示方法の設定(±もしくは絶対値)	ムコウ	タイムサ	モード	ゼッタイチ						
が1で駆動方式がミッション以外の時のみ										
を調整	Range -32 <-> 32									
ージョン・シリアル番号を表示										
を入力	アルファベット入力									
ガードを表示										
示 ([MEM / OK]でエンジンナンバーを選 えている時間をクリア可能)										
	English	Italiano	Dutch	Francais	Deutsch	ニホンゴ	Espanol	Svenska		

[ON / VIEW]でキャンセル・戻る 長押しでリピート

取り付けます。単気筒エンジンであれば、2サイクルでも4サイクルでも使用できます。配線を行う際には、他のセンサのケーブルと束ねないようにしてください。可能であれば、別系統になるようにケーブルをとり回してください。また、ケーブルの破損をさけるため、シャーシに沿わせて設置してください。タコ信号が弱く、表示が安定しない場合には下記の図を参考にして取付けてください。逆に信号が強すぎる場合には、ケーブルをなるべく離してください。



なお、MYCHRON4はエンジンが始動してからデータの記録を開始するようになっていきます。従って、エンジン回転数センサを取り付けないと、ラップタイムなどのデータは記録されません。

温度センサ

MYCHRON4には温度センサを一つ取り付けることができます。温度センサは4種類あり、購入時に選択したもののほかに、オプションで購入することもできます。

5. H2O - 液温センサ (M10 タイプ)
6. H2O - 液温センサ (M5 タイプ)
7. EGT - 排気温度センサ
8. CHT - シリンダヘッド温度センサ

これらのセンサはK型熱電対(黄色のケーブル)もしくは白金測温抵抗体Pt100(黒のケー

ブル)です。

液温センサの取り付け

使用するエンジンのシリンダヘッドにM10の取り付け部がある場合、M10液温センサを直接取り付けることができます。また、液温センサを取り付けるための、接続アダプタ(オプション)もあります。



排気温度センサの取り付け

排気温度センサは、排気ポートから約150mm離れた、ヘッダーパイプに取り付ける必要があります。排気温度センサの正しい取り付け方法は次の通りです。



温度センサのプロープは、ヘッダーパイプ直径の25%から50%まで差し込んで取り付けることを推奨します。取り付け手順は以下の通りです。

9. ヘッダーパイプに5mmの穴を開けます。
10. 開けた穴と中心を合わせて、ナットを溶

接します。

11. 排気温度センサを取り付けます。

シリンダヘッド温度センサの取り付け

シリンダヘッド温度センサを取り付ける際には、スパークプラグのワッシャーを抜いてください。破損を防ぐため、スパークプラグの取り付け・取り外しの際に、シリンダヘッド温度センサをなるべく動かさないでください。



取り付ける際には、振動による破損を防止するため、センサのアーム部分をヘッドのフィンなどに固定してください。アーム部分は、必要に応じて曲げ加工を行ってください。

ラップセンサ


ラップタイムを計測するために、ラップセンサが必要となります。ラップセンサには赤外線タイプと磁気タイプがあり、MYCHRON4ではどちらのタイプも使用することができます。赤外線タイプを使用する場合には、コースサイドにラップマーカー（赤外線発信器）を設置する必要があります。また、磁気タイプを使用するためには、サーキットに磁石が埋設されている必要があります。

- 赤外線式ラップセンサ : コースサイドに設置されているラップマーカーの方向に合わせて車両に設置します。
- 磁気式ラップセンサ : センサに記載

されている矢印を進行方向に合わせて、カートフロアパネルに設置します。

- 高感度磁気式ラップセンサ : センサ本体をなるべく低い位置に設置します。条件により地上高が30cm程度でも反応しますが、動作を確実にするために20cm以下の場所に取り付けてください。電気・磁氣的ノイズでも反応してしまう場合があるので、エンジンなどのノイズ源からはなるべく離してください。センサに記載されている矢印を車両の前後方向に合わせます。




-  MYCHRON4 はラップセンサの形式を自動的に判別するため、設定し直す必要はありません。


ラップマーカー

ラップマーカーの設置場所が走行ラインから20m以上離れてしまう場合には、ハイパワーモードにしてお使いください。ハイパワーモードにするためには、電池交換と同様にカバーを外し、基盤下部にあるジャンパーピンを接続します。ショートピンを一度取り外し、2本のピンを接続させます。ハイパワーモードの場合、電源ランプ下の20mランプが点灯します。ハイパワーモードで使用するには、外部12V電源を使用してください。通常のコースであれば、ハイパワーモードに

する必要はないでしょう。



 Aimのラップマーカーには周波数（チャンネル）切り替え機能はありません。使用する台数に関わらず、コースに必要なラップマーカーは一つだけです。

 ラップマーカーの信号ビームは約17度(3:1)で拡がります。言い換えれば、3m離れた地点での信号ビームの大きさは約1mになります。他社製のものも含め、赤外線方式のラップマーカーがそばにおいてあると、光波が干渉してしまい、信号を拾えなくなることがあります。このような場合、ビーム拡がり角度を参考に、他のラップマーカーから適当な距離を離して設置してください。通常の使用条件であれば、10m程度離して設置すれば良いでしょう。

メモリについて


MYCHRON4には、1MBのフラッシュメモリが搭載されており、各種データを記録しています。

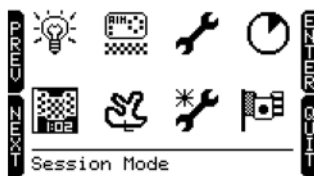
メモリが一杯になっても、古いものから消去

されて、最新のデータが保存されます。

設定メニューの詳細

電源を入れた後、[MENU/<<] ボタンを押すと、次の図のような設定メインメニューが表示されます。

 購入後初めての場合は、設定ウィザードが起動します。



メニューの各項目の内容は下記の通りです。このマニュアルの最後に、設定メニューの一覧表があるので、そちらも参考にしてください。

	バックライト バックライトの ON / OFF 切替
	セッション モード 周回数等の表示方法の変更
	ラップ ムジカン ラップ信号無視時間の設定
	サーキット サーキットの名称を設定
	コントロールパネル コントロールパネルメニュー表示
	セッテイ ウィザード 設定ウィザードを開始

	ルイセキ ソウコウジカン エンジンの走行時間を表示
	ヒョウジ ゲンゴ 表示言語設定

各メニューを選択した際、サブメニューが表示されたり、値を設定する項目は下記の通りです。

セッションモード

以下のサブメニューが現れ、走行中の画面表示方法を選択できます。

シュウカイスウカウンタ (周回数カウンタ)
走行した周回数をカウントしていきます。

ヨセン (予選)

走行セッションの時間を設定し、走行前にスタートさせると、残り時間をカウントダウンします。

レース

レースの周回数を設定すると、残り周回数を表示します。

ラップムシジカン (無視時間)

ラップセンサからの信号を無視する時間を設定します。この数字を上手に設定する事で、赤外線式ラップセンサを使用していて、コースサイドに複数のラップマーカーが設置された場合でも、正しくラップタイムの計測を行います。

また、複数の磁石が埋設されているコースで、区間タイムを計測したくない場合 (予測ラップタイム機能を使用したい場合) にも使用します。例えば、ラップタイムが60秒程度のコースでは、50と設定します (後述する区

間設定は1にする必要があります)。



ここで設定した秒数の間は、区間タイム計測用マーカーを含めて、すべてのラップ入力信号を無視します。設定を間違えるとラップタイムがきちんと計測できなくなります。



区間タイムを計測しない場合を除き、磁気式ラップセンサで使用する場合には3秒から8秒程度の少ない数字にしておいてください。

サーキット

MYCHRON4は、すべてのラップタイムやエンジン回転数と同時に、ここで設定する走行サーキットのデータを記録します。この設定をきちんと行えば、記録されたデータを閲覧する際に、大変分かりやすくなります。

初めて利用する際には、<サーキットツイカ>を選択して、よく走行するサーキットの名称を入力してください。既に入力してあるサーキットの名称は、リストで表示されるので、次回からは選択するだけです。現在選択されているサーキットには三角のマークが表示されます。名称を変更する場合は、三角マークを表示させた上で、あらためて [MEM / OK] ボタンを押してください。

コントロールパネル

詳細は後述します。

セッテイウィザード (設定ウィザード)

設定ウィザードが起動します。詳細については、「クイックスタート」を参照してください。

ルイセキ ソウコウジカン (累積走行時間)

MYCHRON4には、4つの独立した累積走行

時間タイマーとリセットできない合計走行時間タイマーが装備されています。エンジンメンテナンスの目安として利用してください。走行前に、現在使用しているエンジンを選択します。現在選択されているエンジン番号には三角マークが表示されます。選択されているエンジン番号で、再度 [MEM / OK] ボタンを押すと、タイマーをリセットできます。

ヒョウジゲンゴ (表示言語)

システム表示言語を変更する事が出来ます。

コントロールパネルメニューの詳細

設定メインメニューで「コントロールパネル」を選択すると、下記のコントロールパネルメニューが表示されます。



メニューの各項目の概要と詳細内容は下記の通りです。

	テストデータ ショウキョ 記録されているデータを消去する
	RPM セッテイ タコメーターの各種設定
	オンド セッテイ 温度計の各種設定
	クドウホウシキ セッテイ 車両のミッション形式を選択

	クカン セッテイ 区間タイム計測の設定
	システム セッテイ システム全般の設定
	ドライバー ドライバーの名前を入力

RPM セッテイ (設定)

以下のサブメニューが現れ、タコメーターに関する各種設定を行えます。

サイダイ RPM (最大 RPM)

バーグラフタコメーターのスケールを設定します。エンジンの特性に合わせて、最大値を選択してください。

RPM バイリツ (倍率)

エンジンが一回転する毎に発する点火パルスの数に合わせて、正確な回転数が表示できるように倍率を設定します。例えば、通常のカー用エンジンであれば、x1 となります。

回転毎のパルス数は、エンジンの形式ではなく、点火システムによって決まります。例えば、2 ストローク単気筒エンジンでも、一回転毎に 2 パルス発生するものがあり、この場合の設定は /2 となります。

RPM ケイコク (警告)

上部中央の警告ランプが点滅するエンジン回転数を設定します。

RPM ピークホールド

デジタル表示タコメーターのピークホールド機能を設定します。

エンジン回転数が最大になるのはストレートエンドですが、走行中に読み取るのは困難で

す。このため、ピーク値をしばらく表示する事により、コーナー脱出後に確認できるようにします。

クドウハウシキセッテイ (駆動方式設定)

以下のサブメニューが表示されるので、エンジンの駆動方式を設定します。

クドウ ハウシキ (駆動方式)

下記の3項目の中から選択します。

- **ダイレクト**：通常のクラッチ無しダイレクトエンジンを搭載したカートです。
- **テキカイテンセツゾククラッチ (低回転接続クラッチ)**：低回転で繋がる遠心クラッチ付きのエンジンです。
- **ミッション**：マニュアルトランスミッション付きのエンジンです。ミッションを選択すると、予測ラップタイム機能は利用できなくなります。

ミッションノカズ (数)

駆動方式でミッションを選択した場合のみ設定できます。ミッションの最大数を設定します。オプションのE-ボックスで速度を取得すれば、現在のギアを表示させる事が出来るようになります。

クカンセッテイ (区間設定)

以下のサブメニューが表示されるので、区間タイムの設定を行います。

マイセツジシャクノカズ (埋設磁石の数)

走行するサーキットに埋設されている磁石の数を入力します。

クカンモード (区間モード)

区間タイムの表示方法を、「ジッサイノ スウチ (実際の数値)」か、「+/- ベスト (ベスト

とのタイム差)」から選択します。

スタートラインバンゴウ (番号)

複数の磁石が埋設されているコースでは、ピットアウトした後で最初に通過する磁石がホームストレートのコントロールラインでは無い場合が殆どです。そこで、ピットアウト後の何本目の磁石でラップ計測を開始するか、ここで設定します。

システムセッテイ (設定)

以下のようなシステム全般の設定を行います。

トケイヲセツト (時計をセツト)

内蔵クロックカレンダーを合わせます。

ヨソク (予測)

ラップの途中で、予測されるタイムを表示する機能を設定します。前の周回との差を表示する「タイムサ モード (タイム差モード)」と、予測されるラップタイムをそのまま表示する「ゼツタイチ (絶対値)」から選択できます。「ムコウ (無効)」にすると、この機能は使用しません。



予測ラップタイム機能は、駆動方式でミッションを選択した場合や、区間タイムを計測する設定になっている場合には、利用できません。

ハンテン (反転)

液晶表示を反転させます。

コントラスト

液晶のコントラストを設定します。周囲の温度環境などにより、液晶が濃くなって読み取りにくい場合には、設定を変更してみてください。

システム ジョウホウ (情報)

ファームウェアのバージョンや、シリアルナンバーを表示します。

ドライバー

使用するドライバー (ライダー) の名前を入力します。入力した情報は、ラップタイムデータとともに記録され、データ呼び出しの際に確認できるほか、PCにもダウンロードされます。

使用方法の詳細

MYCHRON4 はエンジン回転数や温度を、内蔵のログデータメモリに記録することができます。このデータは、ディスプレイ上でグラフ表示させたり、オプションのデータキーを用いる事で、PCで解析する事が出来ます。

走行中の表示

MYCHRON4 は、グラフィカルディスプレイの採用により様々な表示方法を選択できるようになっていますが、基本的には、上部にタコメーター、右下にラップ/スプリットタイム、左下に温度が表示されるようになっています。表示内容については、前述した「設定メニューの詳細」で確認してください。

記録されているデータを表示する

走行終了後 [MEM / OK] ボタンを押すと、記録されているデータを呼び出し、様々な方法で表示させる事が出来ます。

このデータリコールモードでは、左側二つのボタンで前後ページ (データ) に移動し、[ON / VIEW] ボタンで初期画面に戻ります。さらに、[MEM / OK] ボタンで次の画面表示に変

わります。各画面表示の詳細は下記の通りです。

セッションサマリー (概要)

データリコールモードに入ると最初に表示されます。

最後に走行したテスト (セッション) の概要です。画面上段には、データが記録された日付・テスト (セッション) 番号・周回数合計・最大回転数・最大温度などが表示されます。画面下段には、ベスト3ラップ分の、タイムと最高・最低回転、最高温度が表示され

回転数グラフ

走行中の回転数の推移をグラフ表示します。

ラップヒストグラム

ラップタイムの推移がヒストグラム表示されます。バーが長いほど、タイムが遅かったラップです。この表示で車両のセットアップの傾向が読み取れます。

ヒストグラムの上にはカーソル位置のテスト番号・周回数・ラップタイムが表示されます。また、ヒストグラムの下には、テスト内のベストラップタイムと、カーソル位置のラップとベストラップとのタイム差が表示されます。

ラップ詳細

各ラップ毎の詳細データが表示されます。

記録されているデータを消去する

「MYCHRON4 の設定方法」のテストデータクリアを参照してください。

パーソナルコンピュータでデータを解析する

オプションのデータキーを利用すると、記録

されているデータをパーソナルコンピュータでさらに詳細に解析する事が出来ます。データキーおよびパーソナルコンピュータでの解析方法については、データキーに付属するマニュアルを参照してください。

メンテナンス

MYCHRON4 は、特にメンテナンスする必要はありません。バッテリーアラームが表示された場合には、新品のアルカリ乾電池に交換してください。



サポート

■ 24 時間無償サポートをご利用下さい。

◎ Aim s.r.l. 日本語オフィシャルウェブサイト サポートページ

<http://www.aimsports.jp/support/index.html>

お問い合わせが多いトラブルの解決方法など、FAQ を掲載しています。また、最新のソフト・ファームウェアなどを入手できます。

◎ Aim ソフトウェア日本語解説

<http://sw.aimsports.jp/>

Aim 社がリリースしているソフトウェアの、インストール方法や使用方法を解説しています。

◎故障・修理等のお問い合わせ先は、下記の通りです。

電子メール info@aimsports.jp

FAX 03-6452-4594



Aim s.r.l

Via Cavalcanti 8,

20063 Cernusco sul Naviglio - MI

Italia

<http://www.aim-sportline.com/>

BEAR
RACING SERVICE

RACING GEAR
BEAR RACING SERVICE
<http://www.bear-racing.co.jp/>

有限会社ベア (BEAR inc.)

〒152-0003

東京都目黒区碑文谷 5-25-9

<http://www.aimsports.jp/>